

広報ただみ診療所

朝日診療所

看護師長 五十嵐 千恵子



「診療所を支える縁の下の力持ち」

日に日に稲穂が黄金色に染まり、このころは心豊かに感じられます。今年の4月から朝日診療所の看護師長を務めさせていただき、6ヶ月が過ぎました。駆け出しで勉強中ではありますが、診療所スタッフと協力し、皆様のお役に立てるよう頑張りますのでよろしくお願いいたします。

朝日診療所には19床の入院病床があり、15人前後の患者様が入院されています。2階の入院病棟には看護師の他に4名の介護職員がいます。私たちは助手さんと呼んでいますが、その助手さんが看護師の右腕となっていることをご紹介します。

日勤業務には看護師1名、介護1名～2名。夜勤業務には看護師1名、介護1名(看護師2名の場合もあり)で対応しています。

申し送り後に、検査や処置の介助、シーツ交換に始まり、お食事や排泄のお世話などたくさんの業務をこなしています。高齢の患者様が多いので、物音1つにも注意を払わなければなりません。ベッドの足元に設置している危険防止のためのセンサーマットが鳴れば、急いでお部屋に駆けつけて患者様の付き添いをしたり、ナースコールにも応じてい

ます。タオルを首に巻き大汗で動きっぱなしです。

何よりも心強いのは、体や心のちょっとした変化に気づき、どんな些細なことも報告してくれることです。時には御家族から心配事を相談されることもある様です。毎日患者様と身近に接することで、観察の目を養うとともに、信頼関係を築くことができているからだと思います。今年からこぶし苑の協力もあり、現場での研修に参加させていただき、介護技術の向上にも意欲的に取り組んでいます。

介護の仕事は、細やかな配慮を必要とし、体力もいる大変な仕事ですが、今日も明るく頑張っています。(ストレス発散は、助手会のカラオケだとか)

その他に紹介したいのは、会津中央病院の救命救急センターからの若い看護師さん2名が実習されていることです。主には外来勤務で、処置室で採血や検査を担当しています。4ヶ月間の短い期間ですが、慣れない外来の現場で一生懸命頑張っています。この実習が終わると、ドクターカーに同乗しての本格的な救命ナースの任務が待っています。救急の連携の面でもとても有意義な事だと思っています。診療所スタッフ同様よろしくお願いいたします。

地域おこし協力隊として vol.23

只見町教育振興協力隊

末谷 広大



「夏暑かった分だけ、色づく木々」

こんにちは、地域おこし協力隊の末谷です。

夏が過ぎ、暑い暑いと嘆いていた日々が嘘のように。時折吹く冷たい風を肌で感じながら来る冬の事を考え、先日までの夏の暑さに懐かしさと、言い知れぬ寂しさを覚えています。

先日、3年生の山村教育留学生から「もう、3年間で終わってしまう。寂しい。いつまで只見にいいですか？3月までいちゃだめですか？雪まつりまでは絶対にいたい」と言われました。その他にも、「この町に来て、将来の夢を見つけることが出来た」「このままの生活が続けばいいのに」とも。都心部から只見町に来た15歳。親元を離れこれまでの

生活環境とは異なった地域で送る3年間の生活の中には、冬の厳しさや、共同生活の大変さ、自律的な学習や人数が少ない中での部活動など、苦勞をしたことや、理不尽に感じたこともたくさんあったと思います。しかし、それ以上の「何か」が生徒の心の中を大きく占め、今「このままの日々が続いてほしい」という思いに繋がっているのではないのでしょうか。

3年間という月日は長いものですが、振り返ってみるとあっという間の時間です。時間は続いており、明日は必ず来ます。今抱いているたくさんの想いと繋がりを胸に、未来へはばたいてほしいと願っています。